

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市大倉ふるさとセンター
2	指定管理者	特定非営利活動法人 グリーンライフ東北
3	指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 ○古民家見学者 H27年度 15,388人 H28年度 16,281人 H29年度 12,687人 (前年度比 77.9%)
		《事業》 ○指定管理事業37事業 延べ5,290人参加 ・自然を活用した野外活動体験及び研修に関すること ・生活文化及び伝統技術の体験及び展示に関すること ・センターPRのための交流イベント ○自主及び他施設との連携事業16事業 延べ974人参加
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 23,728千円 (23,709千円) ()は前年度決算額 ・その他市が負担した費用 2,101千円 (685千円)
		《収入》 ・使用料収入 325千円 (698千円) ・その他収入 237千円 (224千円)
6	利用者の声	《アンケートの実施状況と結果》 ・来館者アンケート (H29.4～H30.3に実施) 古民家行事や伝承文化の見学希望が多く、職員の古民家説明も好評と評価を得ている。 ・事業参加者アンケート (H29.4～H30.3に実施) 市政だよりやホームページによる広報も定着し、リピーターはもちろん初めての参加者も年々増え、事業の企画内容と職員の対応も含め高い評価を得ている。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	設置目的を職員全員が理解しそれに基づいて適正に運営管理を行っている。	S
II 施設の運営管理体制	仕様書に定めたとおりに開館し施設の管理運営に必要な職員を配置している。指定管理料についても指定事業ごとの予算書を作成し、終了後は所管課に実施・収支報告書を提出し適正に執行している。個人情報・情報セキュリティ対策については日常のミーティング等で適正な管理について確認している。事故・災害時の対応については自然体験活動を目的とする事業が多いので、参加者への注意書きの配付や役割・連絡体制等を整備して対応している。	S
III 施設・設備の維持管理	施設は日常的に職員が施設のメンテナンスを行っており、利用者が快適に利用できるように適切に管理されている。建物・設備等の管理については、仙台市指定文化財である旧石垣家住宅(古民家)の燻蒸を仕様書のとおり行うなど、適正に管理している。	S
IV サービスの質の向上	接客マナー・利用受付案内等については、職員全員が共通認識のもと、親しみやすく丁寧な対応を行っている。利用者への情報提供は市政だより・ホームページ・チラシ等での広報に努めている。苦情は少ないが、施設の掲示板において意見を募集するなどの対応をしている。	S
V 施設固有の基準	施設の貸出しと使用料徴収事務は適正に行われている。また、事業については地域資源を活用した内容で、他施設ではできないサービスを提供している。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人グリーンライフ東北）による自己評価》	
<p>平成29年度は、長雨による影響で夏休み期間中の自然体験イベントが殆ど中止になった。又、同時に大倉ダムの道路拡幅工事も始まり増加傾向だった来館者数も大幅に減少し、前年度より約3,600名の来館者数の減となった。</p> <p>仙台市指定有形文化財である古民家は囲炉裏や和室を自由に見学できるので、昔を懐かしく思いおこしながら、ゆったりとした気持ちで過ごされていく方も多かった。古民家行事の新たなイベント「真夏の夜のコンサート」は古民家の静寂さの中に緩やかに演奏が響き渡り、聴いている方々は音楽に引き込まれていた。また、「3.11南三陸、震災を語る」では、東日本大震災で実際に被害にあわれた様子や復興に尽力されてきた様子などを語っていただき、仙台市西部地区という山間部に位置しているセンター周辺では考えられないような被災状況に参加された方々は皆胸を打たれる思いがしたようだった。伝承行事ではセンター周辺地域には古来からの行事が今も残っており、「菖蒲節句」「十五夜」「七草」「団子刺し」など伝承文化を引継ぎ、来館者から非常に高い評価を得ている。</p> <p>センターの事業活動全般において、イベント参加のリピーターは増加しており、リピーターの声が新たな参加者を呼ぶことにつながる等、センターの事業が周知されてきたと認識している。特に、ホームページ、広報誌、新聞などへの掲載はもとより、近隣の市民センター等へのチラシ配布にも力を入れ、県内外からのメールや電話での問い合わせなどが増えており、今後に期待が持てる状況である。</p> <p>また、28年度から始めた平日のイベント企画「写経しよう」「簡単飾り雛作り」各3回シリーズ等もリピーターはもとより新たな参加者も増えており、今後も新たな企画に取り組んでいきたい。キャンプサイトの利用も、検索しやすいよう更新したホームページが好評で、レンタル用品（テント・BQコンロ）なども新しい物に切り替わり、キャンプサイト利用者からも好評を得ている。今後も様々なサービスや工夫を展開し、使用料等の増収に繋がるよう職員一丸となって努力しなければならない。</p> <p>イベントにおいては以前から課題であった参加者の当日キャンセルは、数日前に参加確認の電話がけを実施したところ、以前より減って来ている。まだ影響が出ているものの、参加者からも「再認識できて大変良かった」と好評価と、準備物の無駄もなくなり収益も上がってきているので、今後も継続していく。</p> <p>古民家レストランの運営は、地産地消を心がけ、新鮮且つ季節の食材を取り入れ、利用者から喜ばれた。悪天候等の影響で売り上げは伸び悩みましたが、メニューに工夫を凝らし、向上を図っている。</p> <p>今後も地域とのコミュニケーションを大切に、大倉ふるさとセンターの運営をしていきたいと考えている。</p>	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の運営について、協定書及び仕様書に基づいて適正に執行している。29年度は、天候不順等の影響により古民家の見学者や指定事業の参加者が前年度に比べ減少しているが、自然体験事業については雨天中止の事業を除いて比較すると参加者は前年度より増加している。また、指定事業に対して4件の新規企画を実施するなど意欲的に取り組んでおり、特に新事業「3.11南三陸、震災を語る。」は、東日本大震災が発生してから6年を経て他の地域の被災者と交流するという新機軸の企画を実施したものであり、評価できる。</p> <p>人気企画であるカヌー体験や酪農体験等は、地元の自然環境を生かし、地域と連携して実施しており、古民家における伝承行事や倉人祭により地域の交流と賑わいを創出するなど、大倉ふるさとセンターの設置目的に沿った事業運営を着実に実施している。また、ジュニアリーダーを対象に、野外活動体験を通して資質の向上を目指す講習会を実施するなど、特色ある事業を展開している。</p> <p>施設・設備の維持管理についても、古民家を含め維持保全仕様書に基づき適正に実施している。</p> <p>職員の対応について利用者アンケートで「良かった」が約9割となるなど接客マナー・利用者サービスは高い水準にあり、今後も丁寧できめ細やかな対応に努めるとともに、多面的な広報活動を展開してより市民に活用される施設となることが期待される。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課